

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 201人

② 数学 202人

#### 5 留意事項

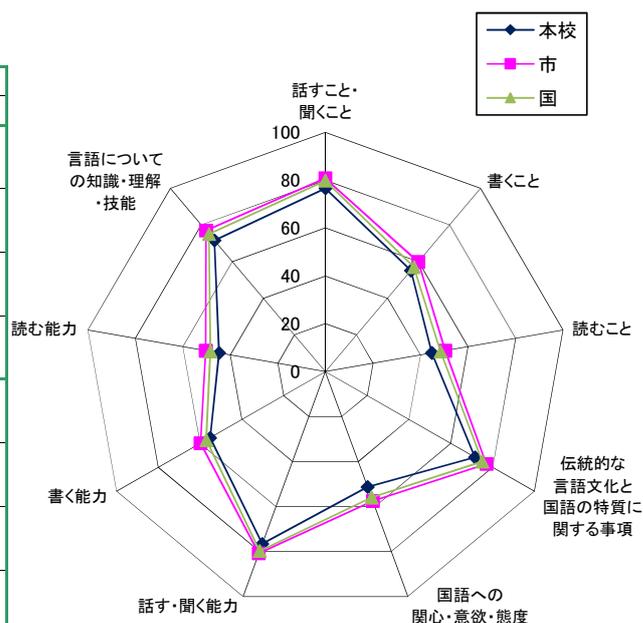
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立若松原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.6	80.8	79.8
	書くこと	55.2	59.8	57.1
	読むこと	44.8	50.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.6	77.0	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	51.2	57.5	56.0
	話す・聞く能力	76.6	80.8	79.8
	書く能力	55.2	59.8	57.1
	読む能力	44.8	50.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	71.6	77.0	75.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

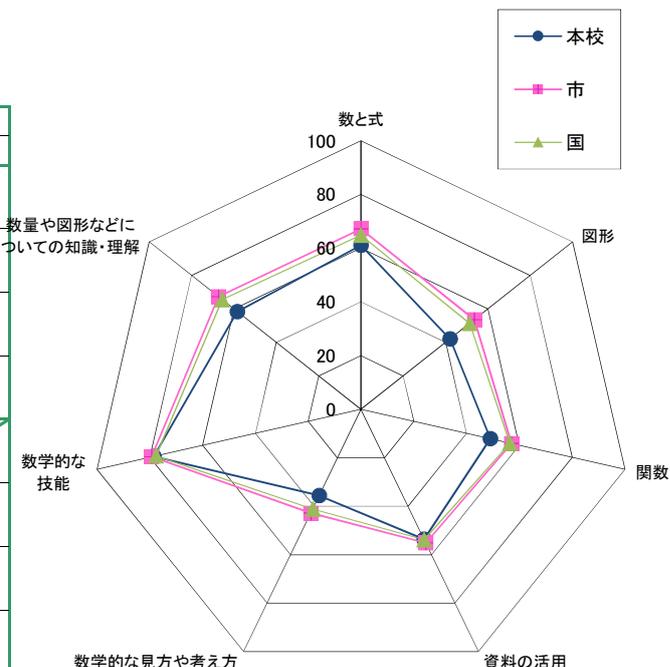
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話し合いの話題や方向を捉える問題、および質問の意図を捉える問題の正答率はそれぞれ86.6%、90.5%で、全国平均には及ばないが、概ね満足できる状況である。</p> <p>●話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える問題の正答率は52.7%で、全国平均を4.4ポイント下回る。</p>	<p>・聞き取りテストを実施し、話題や話し手の意図を捉えさせてきたが、十分な成果が表れていない。今後は頻度を増やし、聞く力の向上を図る。</p> <p>・話し合い活動や発表を通して、話す力の育成に努めてきた。グループでの話し合いの中で、話題や話し合いの方向を意識して発言させたり、発言と発言をつなぐ言葉を意識させるよう語彙を増やす。</p>
書くこと	<p>●書くこと平均正解率は55.2%で国の平均との比較で1.9ポイント下回る。</p> <p>●語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く問題の正答率は24.4%と低く、国の平均との比較でも0.4ポイント下回る。</p> <p>○意見文の構成の工夫を考える問題の正答率は76.1%で、全国平均を1.6ポイント上回る。</p>	<p>・小単元テストや定期テスト等の機会にさまざまな文種の短作文テストを実施してきた。また、希望者を対象とした作文の講座を実施するなど取り組んできた。今後も継続していく。</p> <p>・授業において考えを書かせたり、要約させたりする指導を積極的に実施してきた。徐々に成果となって表れているので継続して実施していく。</p>
読むこと	<p>●読むこと平均正解率は44.8%と低く、国の平均との比較でも3.7ポイント下回る。</p> <p>●文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを書く問題の正答率は10.9%で、国の平均との比較でも9.6ポイント下回る。</p> <p>○文脈の中における語句の意味を捉える問題の正答率は46.3%で、国の平均を2.6ポイント上回る。</p>	<p>・図書委員会の活動を活発なものにし、朝の読書活動を充実させ、読むことに親しむ機会を作る。また、教師や生徒による本の紹介を実施し、小説だけでなく様々な図書に触れる機会を増やす。</p> <p>・詩、小説、説明文の読解の授業では、文章に表れている筆者のものの見方や考え方を表現に即して捉えさせ、そこから自分の考えを持たせる指導を増やす。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○言語についての知識・理解・技能の問題の正答率は71.6%で概ね満足できるが、国の平均との比較では3.5ポイント下回る。</p> <p>●語句の意味を選択する問題、正しい敬語の使い方を選擇する問題の正答率は66.7%、37.3%で国の平均との比較ではそれぞれ7.3ポイント、3.0ポイント下回る。</p>	<p>・漢字の読み書きについては、同じ問題のテストを繰り返し実施することで、学習が成果に結びつくことを実感させてきた。今後も継続していく。</p> <p>・文法や語句などの言葉の知識・技能に関しては、定着が不十分であると考えられる。宿題を含めた家庭学習の充実を図り、定着を促す。</p>

# 宇都宮市立若松原中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	61.1	67.2	64.9
	図形	42.1	53.6	51.4
	関数	49.0	57.0	56.4
	資料の活用	53.6	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	35.6	42.8	41.1
	数学的な技能	78.5	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	58.4	67.4	65.6



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、市の平均よりも約6ポイント低い。 ○整数の加法・減法の計算は市の平均と同水準であった。 ●理解の遅い生徒には、机間指導や、TTによる指導で対応したが内容の定着までには至っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な計算問題はできているので、分数や小数や累乗が混じるような複雑な計算を授業で取り入れていく。</li> <li>・常学習として、既習事項の内容も取り入れる。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市の平均よりも約11ポイント低い。 ●どの図形の問題も県の平均よりも大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の分野は、必要な情報を問題文や図から読み取るために、図形の性質や特徴などを授業で丁寧に指導し、その情報を図形に書き込むことで解決していく。</li> <li>・既習内容と結び付けながら新規事項を教えていく。</li> </ul>
関数	<p>平均正答率は、市の平均よりも約8ポイント低い。 ○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することが苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関数の表、式、グラフのそれぞれの関係について、相関関係を丁寧に指導をする。</li> <li>・問題とグラフの関係性を意識させる。</li> <li>・授業で発展的な内容を取り扱う際に問題解決の方法を生徒同士で説明させるなどの機会を増やす。</li> </ul>
資料の活用	<p>平均正答率は、市の平均よりも約2ポイント低い。 ○資料の活用の単元は県の平均とほぼ同水準だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに力を伸ばすために、自分たちで資料をまとめさせ、資料の傾向を説明させるような学習を取り入れる。</li> </ul>

# 宇都宮市立若松原中学校 第3学年 生徒質問紙

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問で「食べている」の割合は83.2%で、全国の割合を1.4ポイント上回る。本校の課題であったが啓発の成果が見える。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問の肯定割合は80.2%で、全国平均を0.4ポイント上回る。規則正しい生活と学力の関係を折に触れ、伝えてきた結果であり、今後さらに向上するように家庭と協力して指導していく。

○本校生徒の携帯電話・スマートフォンの所持率は全国平均との比較が高く、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問の肯定割合も、77.2%(全国比+9.3ポイント)と高い。情報モラルの指導を継続的に行ってきた成果であり、さらに向上させていく。

○「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定割合はそれぞれ、85.6%(全国比+9.4ポイント)、78.7%(全国比+10.1ポイント)と高く、自己肯定感が高く、将来に希望を持つ本校生の特徴が表れている。本校生の良さを学びに向かう力に結びつくよう指導していく。

○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の肯定割合は75.7%(全国比+9.8ポイント)と高い。このことは各種学力検査の無回答率の低さにも表れている。継続して挑戦することの大切さを指導していく。

●新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中「勉強について不安を感じましたか」の肯定的割合は69.8%と高く、休業中の学習が課題である。今年度、家庭での学習を想定して、個人用端末の整備と利用の指導を最優先に進め、克服に努めた。

○また、学校休業中「計画的に学習を続けることができましたか」の質問の肯定割合は49.5%(全国比+1.1ポイント)で、約半数の生徒が計画的に学習を続けることができた。定期的に課題を課していたことや、主体的に学習に取り組む態度の育成に努めた成果が表れた。

●「授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問に対し「週1回以上」の回答は10.4%(全国比-24.4ポイント)と低い。今年度個人用端末が整備されたことにより改善できる。また、効果的な活用方法についても校内研修を重ね、充実を図っている。

●「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問には平日で2時間以上の割合が39.6%(全国比-2.2ポイント)、休日で3時間以上の割合が27.3%(全国比+0.5ポイント)で、家庭学習時間の少なさは、改善傾向にはあるものの継続して取り組む必要がある。また、時間だけでなく家庭学習の質の向上も併せて取り組んでいく。

## 宇都宮市立若松原中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT機器の利点を生かし、主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。	授業公開ウィークを実施するなど、校内研修の機会を設け、ICT機器を活用した授業を、互いに公開、参観し合うことで、ICT機器の効果的な活用を促進し、職員の授業力向上を図る。	「授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問に対し「週1回以上」の回答は10.4%(全国比-24.4ポイント)であった。今年度個人用端末が整備されたことにより改善できる。
学習意欲の向上を図るための教材、教具の工夫改善	ICT機器を積極的に活用し、調べ学習や、学び合いの機会を増やすことで、子供の学習意欲を高めつつ、基礎基本の定着と記述等に粘り強く取り組む態度を育む。	数学で「解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の肯定割合は81.7%(全国比+5.9ポイント)で、教科による差はあるものの、粘り強い取組については改善傾向である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「1日当たりどれくらい家庭学習しますか」の質問に、平日で2時間以上の割合が39.6%(全国比-2.2ポイント)、休日で3時間以上の割合が27.3%(全国比+0.5ポイント)であり、家庭学習の量と質が課題である。	学力定着のため、家庭学習の習慣化と質の向上	授業とリンクした、考えさせたり、調べさせたりする活動を取り入れた宿題を積極的に出すことで、家庭学習の成果を実感させ、自主的に取り組もうとする意欲を高める。クロームブックのAIDリルを活用し、個に応じた課題で学習させる。